

システムの地図を描いて、クラウドサービスを支える クラウド基盤の見える化による、 確かなシステム運用

どんな研究開発？

必要な時に必要なだけマシンを貸し出す「クラウド」の効率的運用を支援するために、システムの情報収集・分析して、「見える化」する研究をしています。

何ができる？

- クラウド設計情報に基づく見える化
- クラウド内のシステムの理解を助けることによる運用効率化手法
- 多くの、複雑なものを運用するための知識発見、共有方法

状況設定

運用者や利用者による
利用状況に関する理解・共有が困難

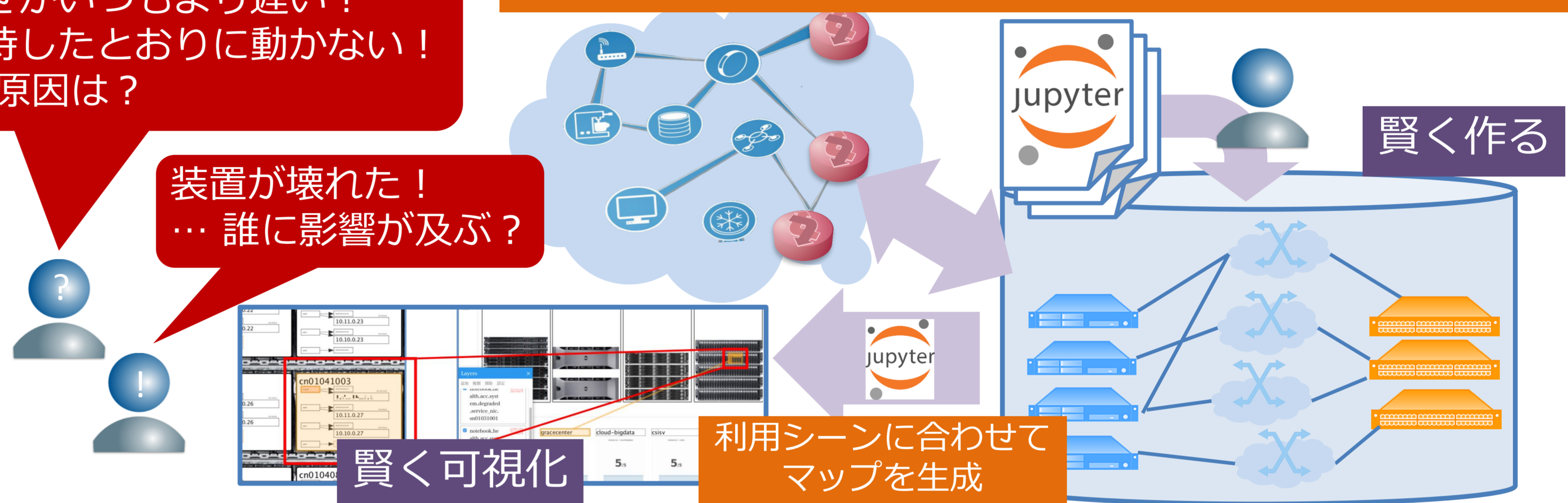
さまざまなマシンからなり、
さまざまな利用者に利用される

理解しやすい一覧化、賢く活用する方法は？

なぜいつもより遅い！
期待したとおりに動かない！
…原因は？

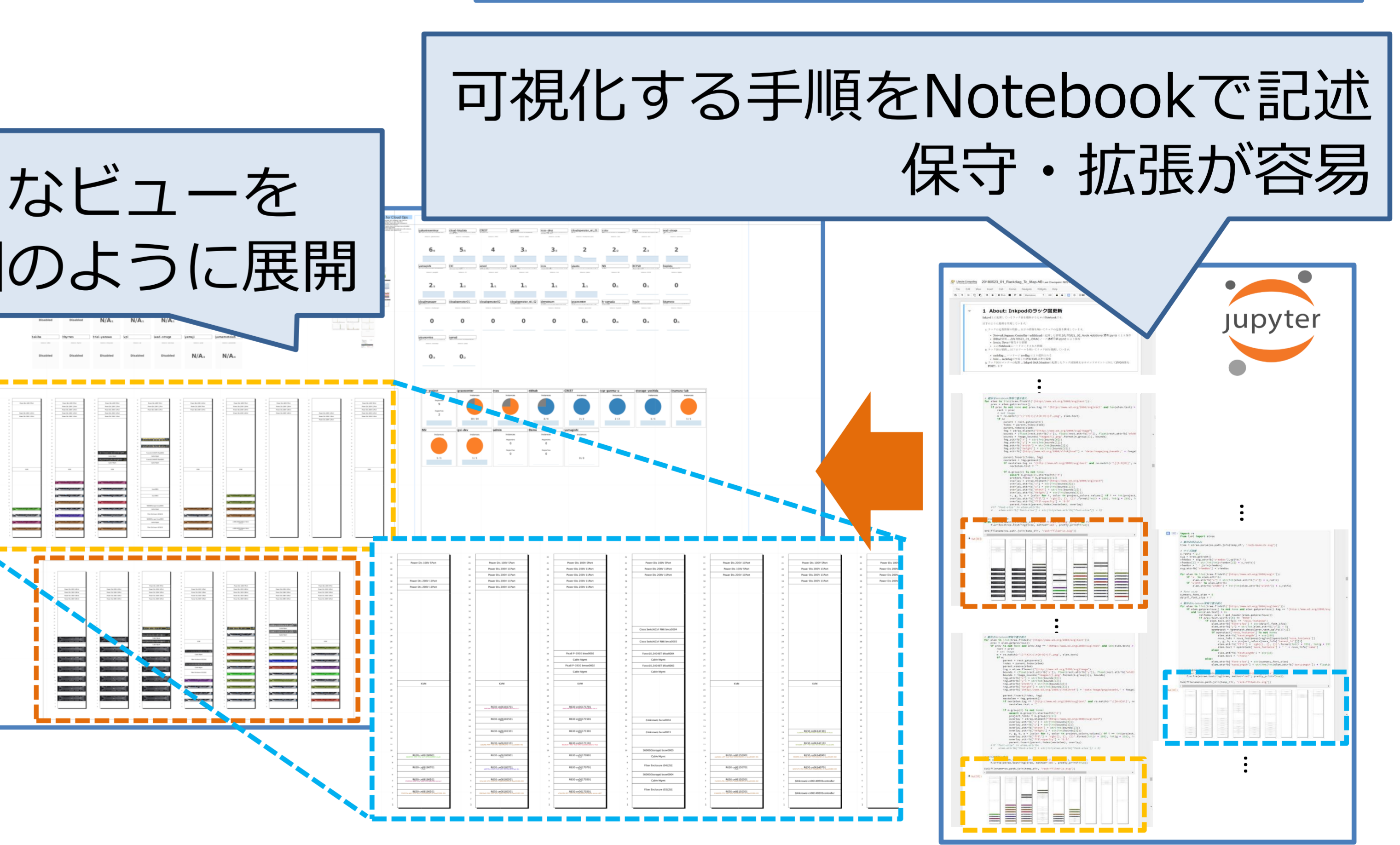
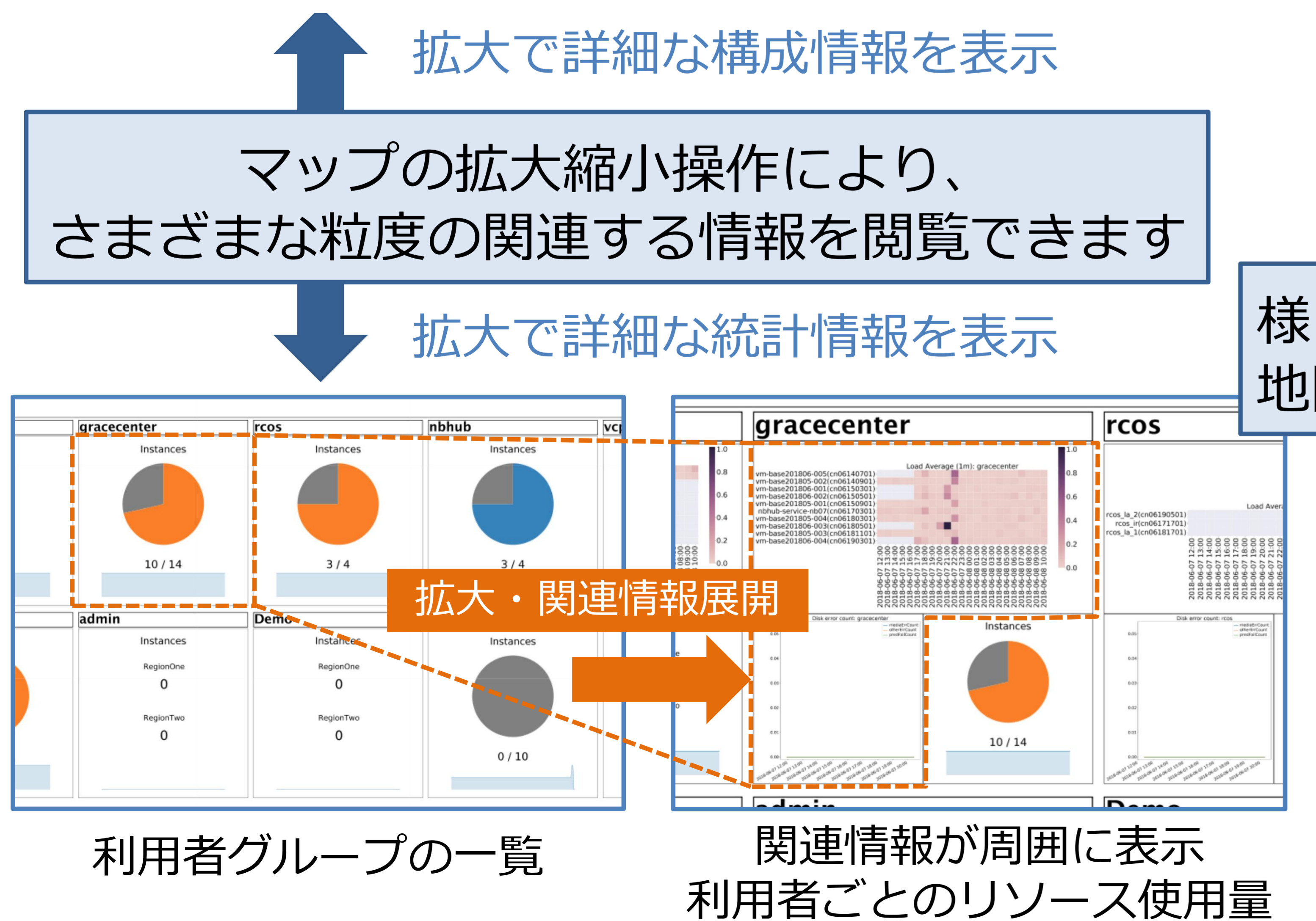
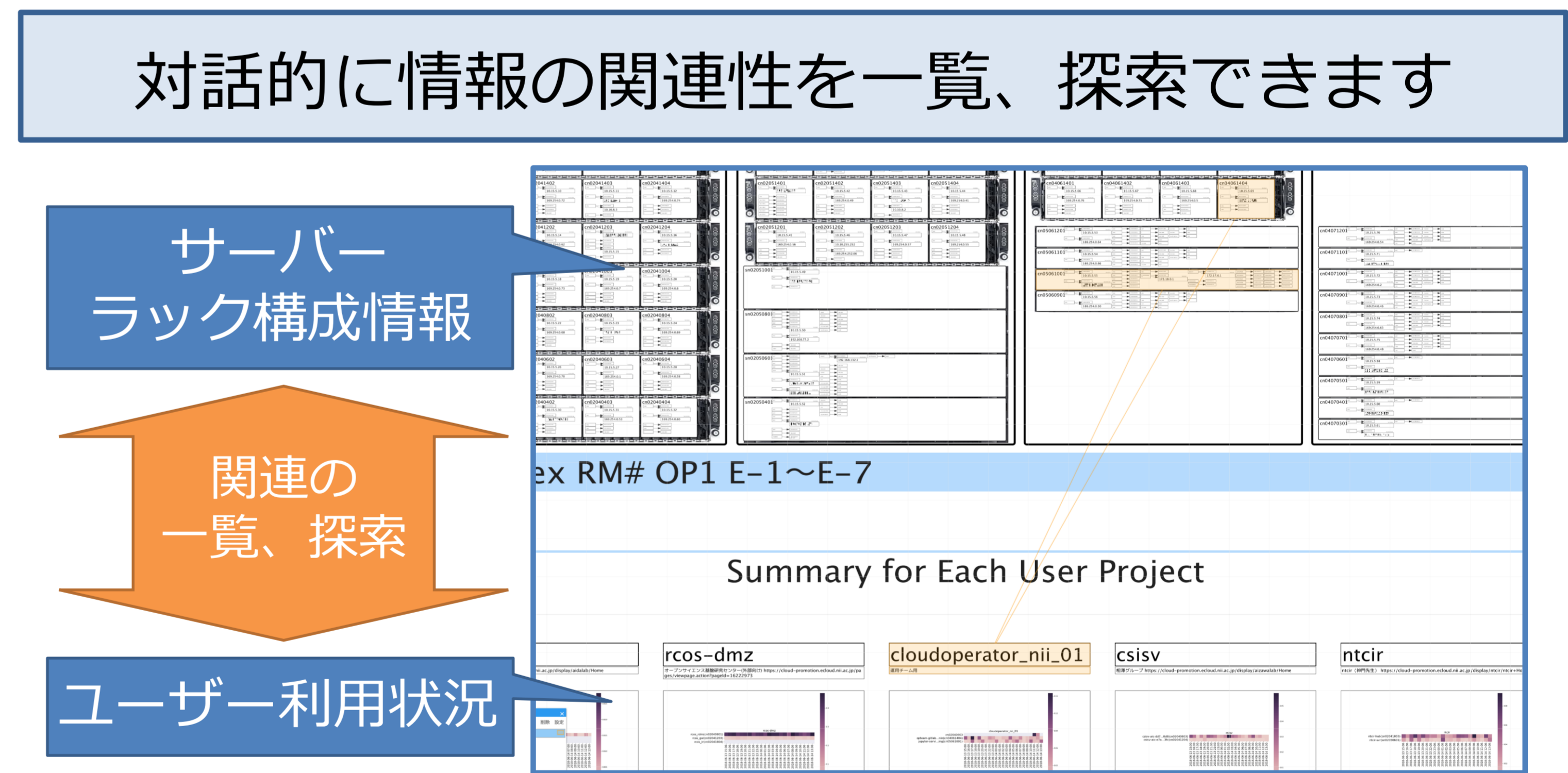
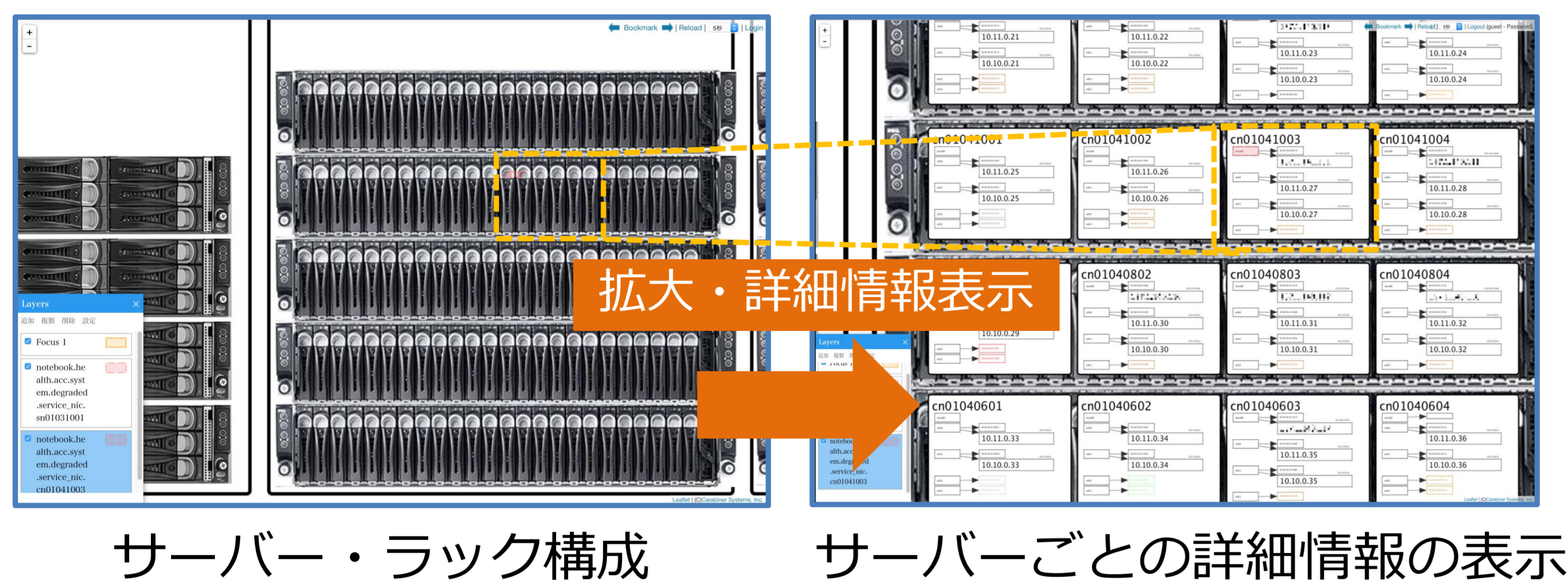
装置が壊れた！
…誰に影響が及ぶ？

プログラマブル・スイッチと対称配備されたサーバ群に、
論理設計を流しこむことで、要件に合ったクラウドを物理レイヤで生成



研究内容

「マップ」による「見える化」～構成の見える化・状態の見える化



運用・管理状態をマップに統合して見える化

設計情報を収集、整理し物理・論理構成を見える化



連絡先：国立情報学研究所 先端ICTセンター, クラウド基盤研究開発センター
Email : nii-cloud-operation@meatmail.jp